

第 12 次 横浜市消費生活審議会  
第 1 回消費生活協働促進事業審査評価部会  
会 議 録

日 時	令和元年 6 月 4 日(火) 13 時 59 分から 15 時 00 分まで
開催場所	関内中央ビル 5 階 特別会議室
出席委員 (3 人)	大森委員、河合委員、楊委員
欠 席 者	—
開催形態	公開 (傍聴者 0 人)
議 題	(1) 部会長の選出について (2) 会議録確認者の選出について (3) 平成 30 年度消費生活協働促進事業について
決定事項	(1) 部会長を河合委員とする。 (2) 会議録確認者を、大森委員、河合委員とする。 (3) 平成 30 年度消費生活協働促進事業について
資 料	(1) 本部会名簿 (2) 実施団体一覧 (3) 事業評価表 (4) 実績報告書類等一式 (5) 事業相互評価シート (6) 申請書類一式
特記事項	なし

## 1 開会

### 事務局

定刻より早いのですが、皆様お揃いですので、第1回消費生活協働促進事業審査評価部会を開催いたします。

部会長選出までの間は、事務局で議事進行させていただきます。経済局消費経済課長の津留でございます。よろしくお願いいたします。

はじめに、現在の出席委員についてご報告いたします。委員総数3名中、只今3名の方が出席されており、横浜市消費生活条例施行規則第2条の規定により会議開催の定足数に達しております。

また、横浜市が保有する情報の公開に関する条例により、本日の部会は公開となります。本部会の会議録は、要約いたしますが、原則そのまま委員名と発言内容を公表させていただきますのでご承知おきください。委員の皆様におかれましては、ご発言される際に挙手いただきますようお願いいたします。

それでは、第12次はじめての部会でございますので、所属委員の皆様を御紹介いたします。次第の次にあります名簿の順に御紹介致しますので、恐縮ですが、一言ずつ御挨拶をお願いいたします。

大森 俊一委員

### 大森委員

日本訪問販売協会の大森と申します。引き続きよろしくお願いいたします。

### 事務局

河合 直美委員

### 河合委員

NACSから参りました河合直美です。引き続きよろしくお願いいたします。

### 事務局

楊 直子委員

### 楊委員

横浜市の生活協同組合運営協議会から参りました楊と申します。消費者の一員としての目線で関わりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

## 2 議題

### 事務局

皆様どうもありがとうございました。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、議題(1)「部会長の選出について」に入らせていた

だきます。

横浜市消費生活条例に基づき、審議会の各部会に部会長 1 名を委員の互選によって定めます。

いかがでございましょうか。

**楊委員**

はい。第 11 次の部会に引き続き、河合直美委員を部会長に御推薦いたします。

**事務局**

いかがでしょうか。河合委員よろしいでしょうか。

**河合委員**

承知いたしました。

**事務局**

ありがとうございます。どうぞよろしくお願ひします。

それでは、議事進行を引き継ぎますので、部会長、席の移動をお願いいたします。

**河合部会長**

それでは、議題（2）「会議録確認者の選出について」に入りたいと思います。消費生活審議会及び各部会では、毎回委員 2 名の方に持ち回りで会議録の確認をお願いしています。五十音順で指名させていただきたいと思いますので、大森委員と私でよろしいでしょうか。

～委員了承～

では、よろしくお願ひいたします。

**河合部会長**

続いて、議題（3）「平成 30 年度消費生活協働促進事業の評価について」に入ります。まず、進行について、事務局から説明をお願いいたします。

**事務局**

本日の進行について御説明いたします。

これから、平成 30 年度に実施した事業の報告を、一団体ごとに行います。

まず、団体から事業報告を行います。次に、事務局から、行政からの評価である「事業実施プロセス相互チェックシート」のご説明をし

ます。その後、団体ごとの評価について、委員の皆様にご審議いただきたいと思ひます。

また、本日お配りしている資料ですが、これからご報告する内容につきましても、資料3から資料6を参考にご覧いただければと思ひます。資料3は団体ごとの事業評価表となっております。資料4は団体から提出された事業報告書等となっております。資料5は事業相互評価シートとなっております。資料6は申請書類一式となっております。説明は以上です。

#### 河合部会長

ありがとうございます。今の御説明について、何か御質問等ございましたらお願いいたします。

ないようですので、これより事業評価に入ります。

#### 河合部会長

それでは、特定非営利活動法人森ノオト様、ご報告をお願いします。

#### 森ノオト

よろしくお祈りします。それでは平成30年度の「横浜の地産地消を未来につなぐ編集会議&文化祭」の事業報告をさせていただきます。少し前の段階に戻りますとNPO法人森ノオトでは、消費生活協働促進事業の補助金を受けまして3か年にわたり事業を行ってきました。本当に様々な地産地消事業を自主事業の中で行ってきました、その後2016年には地産地消の調味料講座、2017年には地産地消を未来につなぐ体験講座ということで、それぞれ8講座とレポートを配信してきました。2018年としては私共の課題としては、森ノオトが講座事業を企画運営して、それを市民の方にお届けするというだけではなく、実際に自らが企画をして運営をしていく、つまり担い手育成を行っていくと考へました。ですので、実は全6回の連続講座を行いましても、かつ文化祭の企画自体を連続講座の受講生が自ら行っていく、そして一人ひとりが自分の企画を発表していくということを行いました。

こちら初回の講座の様子ですが、全て横浜市内の女性が参加してくれました。そして毎回ゲストを1名から2名お呼びしまして、横浜の地産地消の特性などについて話を伺いました。これはサンプルなんですけれども、私の地産地消ストーリーなんですけれども、受講生一人ひとりが自ら地産地消にどの様に出会って、どの様に興味を持っていて、今後担い手として育っていきたいかというものを発表していただきました。それぞれ企画の中で、連続講座の中で、一人ひとり自分自身の地産地消の原点を探っていくとか農家さんについての具体的な情報を自分で調べて発表して、更に講師からの情報を元により磨いていく、そして自分自身で農家さんにアプローチをしていって文章をまとめていく、それから企画を立てるにあたり予算感や講座数なども考

えていくという様なプロセスを経て文化祭を作り上げていったかたちになります。

こちらは受講生の方の調べた情報ですが、横浜市緑区エリアの直売所や農家さんという様な情報を集めてきました。こちらもご自身が住む保土ケ谷区の農家さんとか野菜のマップをご自身が調べてこられました。それから自分自身でこの農家さんと一緒にやりたいという人を見つけていただいて、その方がどうして魅力的でとか、自分の強みと農家さんの強みをどうやって活かして企画を作っていくかという様に、一人ひとりこの様なプロセスで企画を立ち上げていて、最終的には全員同じフォーマットで、こちらの三澤百合子さんの加工品開発ヒストリーというトークショーを行ったんですけれども、そういうトークショーを行うまでの企画内容、企画の意図と背景、会場の仕様イメージと人の配置、予算感、そしてこの企画を通してしたいことというのを企画者全員が一人ひとり発表するというのを行いました。

文化祭はゲストの農家さんですとかこれまでの講座の講師の方とかたちで考えるのではなくて、参加者企画者一人ひとりが主役なんだよということを伝えました。つまり地産地消の担い手として皆さんがこの文化祭を通じて、その第一歩としてこれから発信をする人になってほしい、担い手になってほしいという思いを込めて、一人ひとりをエンパワーメントしていったというかたちになります。消費者が企画者になる、主役は皆さんですよ。もちろんゲストに来ていただく農家さんですとか、これまでの講座を支えていた講師陣も大切な存在けれども、私たちの事業では、地産地消の発信者になる担い手が、まず何よりも羽ばたいて行ってほしいということをお伝えしてきました。

そして実際に2月23日の当日まで様々な企画を行ってきました。実際連続講座は2月23日までの間に4回行ってきて、その講座だけではなくて、実際に農家さんとのアポイントとか打ち合わせなども私共同行しました。本当は皆さんだけでやれると良いなと理想的には思っていたんですが、北部農政事務所のご協力もありながら実際に農家さんの現地を訪ねるとか、企画が難航するものについては私も同行してきました。

こちらの子連れのお母さん達も、前日はお子さんに夕飯を食べさせながら遅くまでチラシのセッティングをしたりして当日朝、こちらの関係者の写真にもあるんですが、農家さんも含め、企画者の家族の協力を仰いだり、お子さんも企画者のお手伝いをしたりとか、そういうかたちで、これだけ多くのメンバーがこの企画、文化祭の実現に関わっていただきました。当日の様子、準備とか慌ただしく動いている躍動感を感じられるかなと思います。本当にその日の朝、農家さんが小松菜を持ってきてくださったりとか地産地消の製品の販売ブースを設けたり。こちらの農家さんと普段から親交のある農政事務所の方々の写真なんですけれども。こうやって企画者と農家さんが一緒に話をしたり、スタッフも裏方で当日の参加者来場者も結構いっぱいいらっしやっただけで、その対応に追われたりですとか、会議室と生活工房というのをフルで使って、個室での静かな学びの場もあってですと

か。あとはこちら横浜市地産地消まるわかりガイドといって自分自身でプレゼンテーションをするのは決して得意ではないんだけど、自分の調べたことを壁に貼りだして。それから、来場者の皆さんのおすすめの地産地消を教えてくださいということで、ちょっと写真が切れてしまったんですが、左側に大きな緑の紙を貼って、こちらも本当に埋まるぐらいにたくさん情報が寄せられました。

あとは地元のレストランのシェフがお手伝いをしてくださったり、農家さんが話してくださった内容が結構来場者の感動を呼んだりとか、本当に美味しいお料理がふるまわれたりとか、物販もほとんど全てのもものが売りきれるといって、嬉しい悲鳴になってしまいました。あとは地元イツコムさんの放送が入ったり、マイナビ農業さんの取材が入ったりということで大変盛り上がりました。

こんなに美味しそうなお料理がふるまわれたり、試食もあつたりして必ずしもプログラムに参加する人だけではなくて、見学する人も十分楽しめる内容になったのではないかと思います。

本当にたくさんの笑顔で満ち溢れた時間になりまして、当日参加者も含めて来場者は140名になりました。年代としては本当に様々だったんですが、30代、40代、50代で7、8割というところになりました。あとは、開催地が青葉区北部だったということもあり横浜市青葉区、都筑区、緑区、港北区というところが多かったんですけど、結構川崎からも来られたり、割と多岐にわたって色々なところから来ていただきました。満足度もほぼ90%が満足、大満足ということで評価いただき、また100%の方が地産地消に対する理解、関心が深まったという風に述べてくださいました。本当にたくさんの声が集まってきました。そしてこの文化祭が終わった後、企画メンバーで最後に、それぞれの消費者市民社会って何？ということをお話ししましたが、情報をきちんと伝えていくこととか、体は食べたものでできているという教育を子ども達にしていきたいとか、大人が正しく知ること、子どもに地産地消とか消費者市民社会というものを伝えることができる。まずは自分が知ることそして発信することにつながってきました。

今回企画をした9名はそれぞれ今自分の農家さん、ここで企画したマイ農家さんのところでお米作りの活動を友達と一緒にしたり、地産地消を取り入れた加工品を開発したり、ご自身の本業でもある料理講座をますます邁進したり、自分のカフェやレストランで地元の農家さんの作物を扱ったりとかたちで、それぞれが自分の消費者市民として自分のできるところから地産地消についての発信をしたり、仲間を巻き込んでいったりということで、担い手として大きく成長してくれています。この事業自体が本当に私達にとっても人材を育成しながらイベントを成功させていくという、なかなかハードルの高いものだったんですが、結果的にとても上手くいった事業となったなという風に思います。ご支援の程ありがとうございました。

河合部会長

ありがとうございました。それでは事務局からの報告をお願いします。

#### 事務局

それでは、本事業の相互評価の報告をさせていただきます。

資料5の2「事業実施プロセス相互チェックシート」をご覧ください。こちらは、森ノオトさんに、団体としての評価を入れていただいております。行政としての評価は、経済局消費経済課が評価を入れております。こちらの評価基準は3つ、「よくできた」がA、「ふつう」がB、「あまりできなかった」がCです。

事業の実施にあたっては、行政は市の広報媒体を活用し、団体はウェブでの情報発信を行なって周知を行ないました。また、文化祭の企画を行なうセミナーには、市民、団体、行政が出席して情報共有、意見交換を行ない、協力して事業に取り組むことができました。

事業を通じて、消費者市民社会の実現に向けた新たな活動を行なうきっかけを支援する有益な事業を実施することが出来たと考えられるため、このような評価とさせていただきました。

事務局からの説明は以上です。

#### 河合部会長

それでは、委員の皆様から事業に対する御質問をお願いします。  
楊委員いかがですか。

#### 楊委員

資料も見させていただきました。とてもすごい事業だったなという風に感じました。この2年間の集大成ということで参加者も140名くらいということで、たくさんの方が来られたなど。場所もアクセスが良く、そういうところも良かったのかなと思います。何よりも参加者が実際に企画者となって成長したというところが、なかなか担い手不足ということが色々なところでもありますので、9名の方が自分達で1つやり遂げるという達成感みたいなものを持てたのが素晴らしいなと思いました。この9名の方の活躍を期待しています。

#### 河合部会長

ありがとうございます。大森委員お願いします。

#### 大森委員

聞き逃してしまったかもしれませんが、文化祭の開催時期は何月くらいでしたか。

森ノオト

開催時期は2月23日です。

大森委員

農家の方はその時期はあまり忙しくないんですか。

森ノオト

そうなんです。端境期でないとやれないというところが最初から出てきまして、そうすると2月という風に絞られてしまいました。

大森委員

この様にまとめると短時間でぱっと話をされますけれども、相当なご苦労があったんだろうなと思いました。お子さんの姿もスナップで撮られています、前にお伺いした時には、年代を広げていくのは難しいという様なことをおっしゃってましたが、今回は行政さんのアプローチもかなりあったり、色んな面での工夫が感じられて大変良かったんじゃないかと思いました。

森ノオト

ありがとうございます。

河合部会長

それでは私の方から。森ノオトさんは参加者を支援されて、参加者の皆さんが羽ばたいていったという風に理解できましたが、森ノオトさん自身が逆に参加者から得られたものがあれば、教えていただきたいです。

森ノオト

実際かなり大変だったんですね、支援していくというのは。途中でパニックみたいになってしまう人もいますし、自信を失ったりとか、人と比較してしまったりとかいうことがあったんですが、こちらもかなり覚悟を持って大きい目標を共有していかないといけないなと思って、その方が自分が企画者になって表に出るということに対して、こちらをきちんと盛り上げていく、でその後どう活かしていくかということも一緒に目標設定していくというのが、なかなか骨の折れる作業ではあったんですが、これをやり抜いたことによって、私達も中間支援ということがどういうことなのかという経験を積むこともできましたし、大きな自主事業で中間支援的なことをやるということが、なかなか大変ではあるんですが、地産地消というある意味分かりやすくもあり、分野がきちっと定まっているところで、それができたということは、内容を深めることにもつながりました。



何より1番嬉しかったのは農家さんが、こういうことに慣れている森ノオトさんに企画・運営していただいた方が実は楽だったという風におっしゃっていたんですね。ただ、その場に当日来てみて、森ノオトさんが何をやりたいのか分かったと。やはり企画者一人ひとりがそれぞれの個性を発揮して、事業をやるということで本当に他には見えない様なオリジナリティのあふれる工夫のある、広がりのあるものになったと思うという風に農家さん自身が言ってくださったことが、私自身すごく励みになりました。

どうしても地産地消とか決まったセグメントの事業というのは同じ様な考え方を持った方々で事業がタコツボ化しやすいとか、内輪受けしやすい傾向がありますが、今後こうした価値を広げていくには担い手を増やすということをしかりやっけていかなければいけませんし、私達はこの事業が大変なんだけれども成功したという風に自信を持って言えます。その成功体験を元に、担い手育成ということについて色々と提案していきたいと考えております。

#### 河合部会長

ありがとうございます。もう1つ行政とのコラボレーションというんですかね、なかなか上手くいかない例が多いんですが、今回大変上手くいったという風に双方が評価していますが、その要因というのがあれば教えてください。

#### 森ノオト

森ノオト自体は地産地消だけではなくて、本当に様々な事業を行っていますが、常に思うのは行政の方はどうしても縦割りになってしまって局であったり課であったり、同じ区役所の中でも全然把握していなかったりということが往々にしてあります。ですので、私達自身が1つの市民団体という役割として、共通の目標に向かってテーブルをきちっと設計する中で、行政の方々が一緒になれる様な場というのを。本当に行政の方に助けていただくことがすごく多かったです。私達市民団体だけではアプローチできない様なところであったり、そういうものもあるので、市民ができることと行政の方ができることをお互いに持ち寄りながら、こことここを一緒にやってほしいとか、ここを助けてほしいというのを明確にして、役割分担ができたというのが良かったのかなと思います。

#### 河合部会長

ありがとうございます。では、「特定非営利活動法人 森ノオト」の事業内容について良かった点、改善点など総評をお願いいたします。楊委員いかがですか。

#### 楊委員

さっき言ってしまった様な感じですが、評価もすべて A ということで、私も行って見たかったと思うくらいです。これからこの9名の方達が、本当だったらそれぞれ独立して、NPO 法人を立ち上げるなどそこまでいってくれたらすごいなと思います。でもその第一歩になっているのかなと思いました。

河合部会長

何か改善点などはありますか。

楊委員

特にありません。

河合部会長

ありがとうございます。では、大森委員いかがですか。

大森委員

市民社会というのが注目を浴びる言葉であると思いますが、地産地消という言葉で、そこに住んでいる方達が地元の方と一緒に、自分達が主体者になるというのはとても大事な事だと思います。これから地域社会が一体となって努力していく姿、ある意味成長した姿というのは、ここで終わるのではなくて、そういう人達を増やしていくことが大事なんだろうと思います。それがこれからの持続的な社会を作ることになるのかなとつくづく感じました。大変価値のある活動だと思います。

反省点を言うとかっていうとそれはやはりご苦労された点ですよ。お金をどう使うかとか色々そういうことで悩まれていると思うんですよ。そういうことはご自身達が一番良く分かっていると第三者的には思っています。ぜひ今後も頑張ってください。

森ノオト

ありがとうございます。

河合部会長

私からは、良かった点はたくさん出たんですが、女性中心の参加ということで、最後にはお子さんとかご家族皆さん巻き込まれて活動されたんだということが良く分かりました。そういったことで、家族で、みんなで活動していける様になっていったら良いなというのと、あとは疲れちゃわない様に頑張ってもらいたいなと思います。やっぱりこういうことって一生懸命になればなるほど、なかなか思いと自分の活動の範囲が上手くマッチングしなくてどこかで疲れてしまうということも良くあることなので、持続可能な活動をしていただければよろ

しいかなと思います。

森ノオト

ありがとうございます。

河合部会長

ありがとうございます。お疲れ様でした。

森ノオト

ありがとうございました。失礼します。

～団体入替え～

河合部会長

それでは、次の団体の事業評価に移ります。

横浜市資源リサイクル事業協同組合様ご報告をお願いいたします。

横浜市資源リサイクル事業協同組合

横浜市資源リサイクル事業協同組合の副理事長をしております栗原です。お時間いただいて10分ほど報告をさせていただきます。よろしくお願ひします。横浜市資源リサイクル事業協同組合ですけれども、横浜市内110ほどありますリサイクル事業者が集まって共同事業を行っている団体です。その中でガラス瓶をリサイクルする事業者が集まっているびん委員会というところがお世話になりましたプロジェクト、横浜リユースびんプロジェクトで、横浜市内の飲食店、飲料メーカー様と一緒に、環境省さんや資源循環局さんからのアドバイスをいただきながら運営しているというのが我々のプロジェクトになります。その活動の中で行っております、横浜市民の皆さん向けがバスツアーとシンポジウム、これを軸に行っておりますので、そこを補助していただきながらの1年間ということになりました。

リユースびんプロジェクトは横浜市内だけでリユースする、リサイクルして再資源化するのではなく、リユースするびんを開発しまして、それに地産地消と神奈川県内のあおみかんというものを使ったジュースを作りまして、居酒屋さんなどで割りものとして流通させているものです。こうしたことで容器も地産地消、中身も地産地消というところで好循環を目指して運営しております。今回の補助事業に関しましては、そういった部分を市民の皆さんに実際に産地を巡り、リユースの現場を見てもらいながら、消費生活に環境配慮という素材を入れてほしいなということでバスツアー等を企画しております。昨年は2回行いました。8月バスツアーを丸隆六甲容器さんという所で瓶を

洗う工程を見ていただいて、その後実際にリユースする瓶を集めている業者さんに行きました。それから地産地消に関しては横浜の中で有名な椿直樹さんという方がいらっしゃいますが、その方のお店ど根性キッチンという所で地産地消に特化したメニューでお昼ご飯を食べながら、地産地消の横浜での取り組みだとかを知っていただいて、その後あおみかんのしずくというものを販売しているアマンドリーナさんという飲料メーカーさんが、あおみかんを収穫していただいている金沢の柴シーサイドファームという所で、あおみかんを実際に摘果するという体験をしていただきました。また、摘果する意味というのは甘みがみかんにいきわたるといことでありますので、秋のツアーの時にはその甘みが完熟したみかんを、今度はみかん狩りということで収穫していただき、摘果の効果などを農家の方から聞きながら市民の皆さんにそういった環境配慮について知っていただくという取り組みを行いました。

実際に体験した中で皆さんのお考えだとか、今回のテーマの1つでもあります **SDGs** との関わりということでシンポジウムを年度末に開催しました。ヨコハマ **SDGs** デザインセンターの信時さんにファシリテーターになってもらいながら国際的な視野というところで、**IGES** の藤野さんや横浜のまちづくりを市民の皆さんと一緒に行われている太陽住建さんの河原さん、それからグリーン購入ネットワークの事務局長である池田様、あとはうちのプロジェクトのリーダーの寺西というところで、多彩な視野から **SDGs** それから環境に配慮した消費行動を皆さんに啓発できる様な方々に来ていただいて、パネルディスカッションを行ったところです。会場には 100 名ほど来ていただきまして、その後の質疑応答も皆さん熱い質問をいただいて、だいたい活発な議論を行うことができました。

参加者の皆さんからはツアーのところで、リユースするという取り組みや摘果に関することがこういう風に行われているということを知らなかったと。そういった意味ではこういうことを若い世代にも教えてもらって、どんどん広げていくことが大事だろうという様な話も聞かれました。また、シンポジウムでは **SDGs** の根本のところを学んでいただいたこともあります。また、環境や社会にやさしい商品を選ぶ消費者に、普通になれる様な状態をこれから広げていきたいという自分事として感じていただく。その中で今回のリユースびんプロジェクトが身近な存在になりましたという様なご意見をいただきながら、嬉しい思いで過ごしたところです。

我々の取り組みがまさに容器と中身の地産地消というところ、それから中身が摘果された後捨てられてしまうあおみかんが勿体ないということを掛け合わせたところが、いわゆる我々のブランドというところで横浜市の皆さんに知っていただきたいと思っています。でも、それを広げていくには横浜はたくさんの方の市民力のある皆さんがいらっしゃるの、そういった方に知っていただいて、インフルエンサーになっていただいて、横浜市内にそういった考えや習慣を根付かせていく、そういったことで、エコノミーとエコロジーの両立ということに近づいていければ良いというのが我々の取り組みです。**SDGs** に関

わるところでこちらの方で案内させていただきましたが、一番大切なのはパートナーシップということに、今回色々なツアーであったりシンポジウムをやっている中で我々も改めて大切さに気づかされました。そういった意味では子ども達にも発信しながら、深いところから生活の中に根付かせていく。そういったところで市民の皆さんの意識を変えていきたい。これからもその様なことをやっていきたいと思っています。

おかげ様で、グリーン購入大賞を昨年受賞させていただいて、先日市長さんにもご挨拶させていただき、激励の言葉をいただきました。

今後に向けて、新たな地産地消事業ということで緑区の北八朔の方の梨農家さんの「浜なし」というブランドをやられている所の皆さんとコラボレーションをして秋の販売に向けて、それを広げていこうというところですが、ここも近くには小学生の皆さんがいたりするので、農家さんとのコラボレーションとかそういったことを交えながら根付かせていければなと考えています。

こういった形で我々だけでは、なかなかこういう習慣だったり文化だったりを根付かせることができないのですが、これからも発信力ある横浜市民の皆さんと一緒に、こういった取り組みをリユースびんをバトンの様にしてつないでいながら、経済と融合ということはなかなか難しいですが、種類を増やしたり取扱店舗を増やしていながら、これからも取り組んでいきたいなと思っています。以上が報告になります。ありがとうございました。

#### 河合部会長

ありがとうございました。それでは、事務局から評価シートの説明をお願いします。

#### 事務局

それでは、本事業の相互評価の報告をさせていただきます。

資料5の2「事業実施プロセス相互チェックシート」をご覧ください。こちらは、横浜市資源リサイクル事業協同組合さんに、団体としての評価を入れていただいております。

事業の実施にあたっては、こまめに連絡をとり合いながら、計画的に行なうことができました。

事業を通じて、環境への配慮を考えた消費生活について、参加者一人ひとりが考えるきっかけとなる事業を実施することが出来たと思われるため、このような評価とさせていただきました。

事務局からの説明は以上です。

#### 河合部会長

それでは、委員の皆様から事業に対する御質問をお願いします。

大森委員をお願いします。

**大森委員**

シンポジウムに 98 人参加されたとのことですが、男女の比率や年齢構成が分かれば教えてもらいたいです。

**横浜市資源リサイクル事業協同組合**

比率でいうと、少し男性の方が多めです。ただ女性もいらっしゃいましたし、若い世代の方もいらっしゃいました。ツアーに参加された方も、経済局さんの方でも情報を流していただいたこともあり、それがきっかけで参加されたお母さま方もいらっしゃって、そういった意味ではすごく新鮮な驚きと、ツアーの中で感じたことをぜひシンポジウムで言いたいという方もいらっしゃいました。

**大森委員**

ありがとうございました。

**楊委員**

バスツアーは、今までも毎年やられていたんですか。

**横浜市資源リサイクル事業協同組合**

一昨年 1 度させていただいて、その時は我々の同じ業界であるとか、我々も初めてでしたので試しにというところだったんですが。市民の皆さんに思いのほか喜んでもらえたので、そこはうれしく思っています。

**楊委員**

時期ですが、夏と秋で 2 回やられていますが、夏はお子さんの参加はありましたか。

**横浜市資源リサイクル事業協同組合**

4 年生と 3 年生のお子さんを連れた方が 2 組いらっしゃいました。

**楊委員**

自由研究に最適だなと思いながら聞いていました。

**横浜市資源リサイクル事業協同組合**

その親子さんからも、こういうものを親子向けにやったらどうですかというご意見もいただきました。

楊委員

良いと思います。

横浜市資源リサイクル事業協同組合

参加された方でも女性お一人でしたが、子どもも連れてくれば良かったというご意見もいただきました。

楊委員

秋は平日だったんですか。

横浜市資源リサイクル事業協同組合

はい。

楊委員

そうすると秋はお子さんは難しいかもしれないけど、夏は夏休み中なので、ぜひお子さんも参加したら良かったかなと思いました。それと、シンポジウムの時のパネリストの選定はどの様な考えを元に選定されたのでしょうか。

横浜市資源リサイクル事業協同組合

これは我々もまずリユースびんプロジェクトというところで関係している方ということで、グリーン購入ネットワークさんだとか市民の皆さんに近い企業さんのお声を聞きたいというところで太陽住建さんと決めさせていただきました。その中で **SDGs** ということが裏テーマというか、これから押し出していくテーマになるので、そこで横浜でインフルエンサーになっていただける方、それから **SDGs** を学ぶのであれば世界的動向もというところで、関係者を介してこの方が最適だろうというところでテーマに沿って選ばせていただきました。

楊委員

ありがとうございます。

河合部会長

最後に私から伺いたいと思います。なかなかこういった事業は集客が難しいんですが、募集人数を超えた応募があったということで何か工夫されたことはあったんですか。

横浜市資源リサイクル事業協同組合

ツアーは各区役所への配架と **Facebook** で情報を流しました。意外と **Facebook** が、私達の流したアカウント以外から、例えば南区で参

加された方が南区民ニュースのアカウントがそれを言っていたから、来ましたとか、情報収集されている方が違うアカウントにピックアップしてくださったりしました。それと市役所のラックを見てという方が多くて、そこは本当に経済局さんが配架してくださったので、かなりツアーの方で集客はありました。

#### 河合部会長

ツアーは楽しそうだなと思うんですが、なかなかシンポジウムという敷居が高いということが多く、今まで私共の経験上、良いシンポだったんだけどなかなか集客が厳しかったですとおっしゃる方が多いんですが、このシンポジウムについて工夫されたことはありますか。

#### 横浜市資源リサイクル事業協同組合

当初はパネリストさんを先に決めさせていただいたので、うちが集客できなかったらどうしようというのも正直あったんですが、事務局の方でも募集については工夫しました。企業さんからいらっしゃる方も多かったんですが、ツアーに参加された方にも、うちのリユースびんとしてシンポジウムに参加するのでご興味ある方ということで追加発送したら何人か行きたいですという方もいらっしゃって、引き続きリユースびんプロジェクトを応援したいという方が来てくれました。

#### 河合部会長

ありがとうございます。広報の件で行政の協力があって良かったという話がありましたが、その他に行政とコラボして良かったなという点があったら教えていただけますか。

#### 横浜市資源リサイクル事業協同組合

ホームページを見たら、ですとかそういうお声があるので、ツアーやシンポジウムにご興味がなくてもリユースびんというワードを植え付けることができるだけでありがたかったと思います。ツアーに参加されてそこが出発地点で、我々はツアコンの経験はないんですが、ツアコンの様に接しなければいけないので、終盤になってこの人達はツアコンじゃないのねという方が結構いらっしゃって、一緒にバス旅行を楽しむことができたので、最終的にリユースびんの事業について本当にプロジェクトスタッフと同じくらいの熱さで色んなメッセージをいただけたりというところでは、インフルエンサーになっていただけた、応援団を増やすことができたかなと。そういう意味では来ていただくうえでの信頼性、こういったコラボレーションがないと難しいと思います。



**河合部会長**

ありがとうございます。では、「横浜市資源リサイクル事業協同組合」の事業内容について良かった点、改善点など総評をお願いいたします。

**大森委員**

地域循環型という言葉がありますが、そういうことを市民の方達が自分で考えたりされて、あなた方が一生懸命フォローされて、横浜市の中でそういう目標を掲げた企業が成長していく。それはやはり市民の方達がそうさせていくんだというイメージはやはりあるんですよね。今回の活動というのはやはり価値のあるものという風に位置付けられていると思うんですが。

**横浜市資源リサイクル事業協同組合**

そうですね。視察先でお伺いした所もそうですし、ツアーにいらっしやった皆さんもそうですが、実際こうやって現場を見て体験して知るということを、集客が減っちゃうかもしれないけど、なるべく続けていった方が良いでしょうとお願いしていたりもしたので、そういった意味ではこういった機会を作り出していくというのは我々にできることだなと思います。

**大森委員**

そういった輪を作る原動力になると思います。大変な活動ですが、ぜひ続けていただきたいと思います。以上です。

**楊委員**

びんのリユースというのは今広がっていないとか縮小されているのは、やはり輸送コストとかそういうものが関係しているのかなと思いますので、地産地消でなるべくこういうコストをかけないで地元でやるというのはとても大切なことだと思います。なかなか作る場所から回収してという全部の業者を、横浜市の中で見つけ出すというのがすごいなと思いましたので、もっと色々な種類が広がって、アンケートにもありました様に学校でも、びんに戻ると良いなと思います。頑張ってください。

**横浜市資源リサイクル事業協同組合**

ありがとうございます。

**河合部会長**

では最後に私から。協同組合さんといっても事業者さんなんですけれども、事業者さんと消費者の垣根を越えてコラボレーションして、

こうやって活動されているというのが大変評価されるべきところだなと感じました。お疲れ様でした。先ほど給食の話もありましたが、なかなか行政を巻き込んだりというので難しいので、ぜひ行政を巻き込んで拡大できる様に。輸送コスト等難しい課題もたくさんあると思いますが、消費者がちゃんとそこも引き受けるよという心意気がないとなかなか事業者さんの努力だけでは難しいと思うので、事業者、消費者、行政が一体となってこういった事業を推進していくということが必要じゃないかと思います。ぜひ頑張ってください。今後ともよろしく願いいたします。お疲れ様でした。

**横浜市資源リサイクル事業協同組合**

ありがとうございました。失礼いたします。

～団体退出～

**河合部会長**

実施団体からの報告は以上になりますが、全体を通じて、総評や感想があれば、お願いします。大森委員いかがですか。

**大森委員**

言い尽くしてしまいましたが、当初このセレクトをした時に消費者問題未然防止というテーマがあって、こういう地域社会に貢献する地産地消というテーマというのは、何となく私の中で当初はちょっと身近ではなかったんです、正直。森ノオトさんの活動は特に私の中で印象深く、回数ごとにステップアップしていく感じがすごく強くて、やった過去のことをきちんと自分達の中で評価して、アプローチを変えていきながら、行政さんの力もあって、特に森ノオトさんは大変良かったなという印象が強いです。

**河合部会長**

大森さん変わられましたね。

**大森委員**

そうですね。そういうことって結果的に良かったと思っても、これをどんどん広げていかなきゃならない。そういう責任も一方で出てくるわけですね。消費者市民社会を形成していくうえで経験した方達が、自分達に課す責任になると思います。それを行政が支援することで、良いスパイラルができていく。この協働事業というのはそういう意味で大変価値のあるものだと思います。点をもう少し面に持っていく様な活動が、今後広がっていけば良いなと感じました。

河合部会長

楊委員はいかがですか。

楊委員

最初に選定する時に私個人の視点から見ると、この2つの団体の方達はとても魅力的な活動をされているなと思ったんですが、やはり消費者問題に目を向けなきゃいけないのかなと思ったりもしていました。結果的にこの事業報告を聞いて、すごく有意義な活動だったんじゃないかなと思います。先ほど大森さんもおっしゃってましたが、森ノオトさんは、風の噂ですごく生き生きと活動されている団体なんだよというのは以前から聞いておりましたので、どういうことをやるんだろうなという期待がありました。なので、今回の報告を聞いて実際に担い手を育てるというところにチャレンジしたということがすごいなと思いました。リユースびんの方も、今プラスチックの問題が全世界的に起きているので、そういうところに一度立ち返って、今までやってきたリユースの良さというのをもっと皆さんに知らせたら良いなと思っています。貴重な活動だなと思います。ただなかなか一気には広まらないとは思いますが、地道に少人数からでも伝えていくというのが一步一步大事なのかなと感じました。

河合部会長

出尽くされてしまいましたが、森ノオトさんがタコツボ化しちゃいけないとおっしゃっていたんですが、私自身もそれはすごく感じる場所なんですね。やはり意識高い系じゃないですか。そういうと自分達だけが正しいことをしているという様な意識に変えられてしまって、どうしてできないのという風になってしまうところがあって、自分達の活動に邁進してしまって、逆に視野が狭くなってしまいうということがあるんですが、そこを乗り越えて大変な思いをして、広げる活動をされたというのが、大森委員もおっしゃった様に毎年育っていったって広がっていく活動をされているのが素晴らしいなと思います。

リサイクル事業協同組合さんは、事業者さんの組合なので、少し男性の参加が多いのは気にはなりましたが、やはり男性社会の企業がリサイクルとかリユースという面に目を向けて消費者市民社会を構築していったって、SDGsなども推進していこうという姿勢が見られて、その努力というのは素晴らしいと思います。この事業は予算が今年度つかなかったというのは大変残念ですが、お金だけじゃなくて行政が支援できることって多分たくさんあると思いますので、ぜひ工夫をしていただいて持続可能な部会にしていただきたいと思います。

最後に事務局からお願いします。

事務局

長時間に渡りご審議いただきまして、ありがとうございます。

<p>3 閉会</p>	<p>秋に開催を予定しております第12次消費生活審議会では部会の報告を行います。内容について、部会長と相談の上、報告させていただきます。事務局からは以上です。</p> <p><b>河合部会長</b></p> <p>これで、令和元年度第1回消費生活協働促進事業審査評価部会を終了いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>
-------------	--